

海岸環境に対する利用者の評価構造に関する分析

日本建設コンサルタント（株） ○正会員 刑部泰郎

（株）フジタ 正会員 浅対 享
鳥取大学工学部 正会員 喜多秀行

1. はじめに

レクリエーションの場としての海岸利用整備計画を立案する際、利用者の意向をできるかぎり考慮に入れることが要請されている。しかし、海岸利用に対する利用者の意識には多様なものがあり、どのような海岸が好まれているかを知ることは容易ではない。

そこで本研究では、利用者によって示された海岸環境の魅力に関する評価結果とそれを規定する海岸環境の評価構造を明らかにすることを目的とする。

2. 基本的な考え方

本研究では利用者は海岸の数多くの自然条件の構成要素を直接相互に比較対照し海岸の利用環境を評価しているのではなく、これらの自然条件の要素を海岸環境を特徴づける雰囲気や魅力といったものに集約したうえで、総合的な評価を行っているものと考えている。そこで、まず海岸利用を特徴づける自然条件の構成要素と利用環境の評価結果との関連構造を記述するモデルの構築を試みる。これと並行して、モデルに組み入れた自然条件の構成要素が規定する種々の利用環境に対する評価を問うアンケート調査を実施し、得られたデータを用いて評価構造の構成要素の相互関係を定量化する。このような主観的評価には、観測できない様々な要因に起因する誤差の混入や評価の揺らぎが存在する。そこで、このような特徴をもった意識構造分析の有効な手法の一つである「共分散構造分析 (Covariance Structure Analysis)」を用いて評価構造を同定する。こうして同定されたモデルの現象説明力を検討し、さらにモデルの改良を図ることにより評価構造モデルの精緻化を図る。

3. 評価構造のモデル化

海岸を利用する際の魅力は海岸の種々の自然条件を活かした利用が可能ながことが挙げられる。これらの利用は、波の静穏度や前浜の広さなど海岸の自然条件により構成される。人々を海岸に引き寄せる魅力は、「波の音」「潮の香り」等の海岸の物理的な要因によって形成される心

表-1 海岸環境に対する評価を構成する要素

変数	変数の内容
x_1	空間条件に対する適性度
x_2	海岸条件に対する適性度
x_3	気象条件に対する適性度
x_4	穏やかな雰囲気の程度
x_5	のどかな雰囲気の程度
x_6	雄大な雰囲気の程度
x_7	開放的な雰囲気の程度
x_8	爽やかな雰囲気の程度
x_9	圧迫感のある雰囲気の程度
y_1	行動条件に対する適性度
y_2	雰囲気にに対する適性度
y_3	行動、雰囲気にに対する適性度

的環境により構成される。このような視点から、分析にあたっては「利用形態」と「雰囲気」の2つの特性をモデルに取り入れ検討を進めていく。さらに利用形態と利用者属性により、求められる自然条件は異なることから、利用環境の評価構造を比較し、「利用し易さ」及び「雰囲気特性」の総合的な評価構造を定量的に把握する必要がある。この仮説に基づき海岸環境に対する評価に関して支配的であると思われる要素を選定したものが表-1に示す変数である。

4. 使用データの概要

アンケートでは、いくつかの海岸を具体的に提示し、利用し易さ、雰囲気の良さ、魅力的な利用環境の度合いを「適している」から「適していない」の4段階尺度で聞いている。本研究では、表-1の変数名に示す12項目のそれぞれに対する評価結果を分析の対象とした。その際、利用者属性、利用形態によって好まれる自然条件が異なることを考慮に入れ、若者から家族連れを対象に、海水浴と散策についてのデータを収集した。アンケートは全部で270枚配布したが、回答の不備なものを除去し、分析対象数は最終的に230枚で85.2%の有効回収率となった。

